

〈アジア平和貢献センター共催〉

最近の中国の対日観と対日姿勢をどう見るか

元駐中国特命全権大使
宮本雄二

- * 中国強硬外交の破綻
- * 大国願望は捨てない
- * 長期化する米中对立の構図
- * 米中对立の狭間にある台湾問題
- * 頓挫した中国のアジア外交
- * 日本に学ぶことを再認識
- * 米中悪化の反射が後押し
- * 国際秩序での協力余地
- * 歴史問題を争点にする愚
- * 党より国民の支持が重要



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、恒例になりましたアジア平和貢献センターとの共催の講演会で、2006年から中国の特命全権大使をされました宮本先生においでいただきました。ご存じの方も多いと思いますが、中国には外交官として3回駐在されたご経験をお持ちです。いろんな外交官の方をお呼びしましたが、宮本さんは中国に関してはいへん造詣の深い方でございます。

中国の現在の状況もたいへんいろんな形で動いておりますし、特に米中の貿易戦争や、最近では安倍首相と久しぶりに親密さをアピールする会談があったところでございます。

中国はどこへ行くのか、それから日本がどうつき合ったらいいのか、たいへん皆さんもご興

味のあるテーマだと考えております。今日は宮本先生から、その辺のところをじっくり伺えると思います。

それでは、共催団体であるアジア平和貢献センターの西原理事長にご挨拶をいただきましたと思います。西原先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

西原 ただ今、ご紹介いただきました西原でございます。

本日は、形の上ではいつもの講演会とまったく同じでございますが、1年に一遍だけ、私も一般財団法人アジア平和貢献センターとの共催という形をとらせていただいておりますので、その立場から一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。